千葉県松戸市での取り組み

団地の断熱を、大学生といっしょにDIYで

流通経済大学 × 銀座環境会議の試み

平野 将人　一般社団法人 銀座環境会議 代表理事

エネルギー貧困解決のための未来フォーラム　2026年11月9日

団体紹介

銀座環境会議について

銀座環境会議
GINZA Conference on Environment

2019年11月設立。“都市生活者のライフスタイルを変革する”ことで、持続可能な社会をめざす市民団体です。



市民参加の発電所「そらぴか発電所」

6か所のうち3か所は障がい者施設1か所は自立援助ホームの屋根に

環境と福祉の連携



省エネお助け隊（経産省補助事業）

中小事業者を専門家が訪問して省エネ診断。費用は国が9割補助。



Refill松戸（松戸市協働事業）

給水スポット・マイ容器スポットを広げ、使い捨て容器を削減。



2030SDGsゲーム＋座学

68回開催、1,283名が参加（2026年5月現在）。

きっかけ①　補助金への違和感

補助金は、ある程度「自前で持っている人」しか申請できない

太陽光発電

電気自動車

断熱改修 など

どれも、まず自己負担分を用意できる人が対象になりやすい。
活動を続けるなかで、そう感じるようになりました。

> **これって、ある種の「金持ち優遇」では？**

きっかけ②　足元の団地

「DIYでもこんなにできる」。
でも、それは誰にでもできる？

広がる断熱DIY

断熱が注目されるなか、内窓づくりなど「DIYでもこんなにできる」という情報をよく目にするようになった。

わたしが住む松戸市・常盤平団地

独り暮らしの高齢者がとても多い（国勢調査などからも実感）。

例えば、独居の高齢女性がホームセンターに行って内窓を作るだろうか？

松戸市・常盤平団地

常盤平団地のいま

1960年
入居開始（日本住宅公団、現UR）。171棟・4,822戸

約6,700人
最盛期の約1万7,000人から減少

44.5%
高齢化率（日本人のみでは57.2%）。松戸市全体は25.7%

いまは、高齢のひとり暮らしが多い団地に



https://lifullhomes-index.jp/buildings/b-15086282/

出典：東京新聞（2026年）。高齢化率は2026年3月末時点　5 / 9

連携

地域に出たい大学と組んで、団地の断熱へ

流通経済大学 コモンズセンター

地域へのアウトリーチをめざして設置された拠点
今回の学生の活動を支援

学生（2つのゼミ）

法学部 尾内ゼミ（３・４年生）
経済学部 加藤ゼミ（３年生）

銀座環境会議

省エネ診断などで培った知見でサポート

→

団地の住まい

DIYで断熱

しくみ｜常盤平団地・快適エコ暮らしプロジェクト

古い団地でも、少しの工夫で、夏は涼しく・冬は暖かく・光熱費を抑えて暮らせる

考える

古い集合住宅でもできる省エネ・快適化の方法を選ぶ（費用・効果・注意点を比較）

調べる

自治会の協力でアンケート、住民へのインタビューで困りごとを聞く

届ける①

高齢者や外国人住民にもわかりやすい「快適エコ暮らしガイド」を作り、配って説明

届ける②

団地の部屋で実際にDIYの対策をやってみて、効果を測る

大がかりなリフォームではなく、賃貸ゆえの改修制限も踏まえて「自分たちでできる範囲」で。期間は約3か月（12週間）。市役所への提案も視野に。

進み具合

プロジェクトは始まったばかり

済

大学と連携して始動

流通経済大学の2つのゼミとチームを組む

済　11月5日

断熱の勉強会

丸橋浩先生（エネルギーまちづくり社）を招き、断熱のしくみと、団地でDIYでできる断熱を学んだ

これから

調査・DIY・ガイドづくり

アンケートとインタビュー、いくつかの部屋でのDIY断熱、住民向けガイドの作成へ

ゼミ指導教員
尾内 隆之 先生（法学部教授、政治学・環境政策論）
加藤 里紗 先生（経済学部准教授、環境経済論）





ゲスト講師：丸橋 浩 先生（（株）エネルギーまちづくり社／一級建築士）横浜市などで自治体と組み、断熱の普及に取り組む

https://www.rku.ac.jp/with/scope/scope07.php
https://www.rku.ac.jp/with/scope/fashion01.php

今後に向けて

今回は「お試し」。
次は、届きにくい世帯にも広げたい

・今回は試行の段階で、貧困世帯などに絞って届けることはまだできていない

・今後はそうした世帯も視野に入れ、広く展開していきたい